

医政発0927第10号

平成25年9月27日

各都道府県知事 殿

厚生労働省医政局長

(公印省略)

「非医療従事者による自動体外式除細動器 (AED) の使用について」
の一部改正について

非医療従事者を対象とした自動体外式除細動器 (AED) の講習内容につきましては、これまで「非医療従事者による自動体外式除細動器 (AED) の使用について」の一部改正及び「自動体外式除細動器 (AED) の講習内容の取りまとめについて」の廃止について (平成24年9月21日付医政発0921第11号厚生労働省医政局長通知。以下「医政局長通知」という。) により、一般市民、一定頻度で対応が想定される者及び講師養成のための講習内容を示し、対応をお願いしてきたところです。

今般、一般財団法人日本救急医療財団が主催する「非医療従事者による AED 使用のあり方特別委員会」において作成された「AED の適正配置に関するガイドライン」の中で、胸骨圧迫のみの心肺蘇生と AED を組み合わせた講習 (以下「入門講習」という。) が示されました。この入門講習については、一般市民を対象とした既存の講習同様に有効性が示されるとともに、入門講習の実施による一般市民への更なる心肺蘇生法の教育・普及が期待されています。

これを踏まえ、別紙のとおり「非医療従事者による AED の使用を促すための入門講習」を医政局長通知に追加したので、その内容について御了知いただくとともに、管内の市町村 (政令市、中核市及び特別区を含む。)、関係機関、関係団体等に周知していただくようお願いします。

記

改正内容

医政局長通知の記3中の一部を別紙1の新旧対照表のとおり改め、同通知中の別紙2を別添1に改める。

「非医療従事者による自動体外式除細動器（AED）の使用について」

新	旧
<p>1～2 (略)</p> <p>3 一般市民を対象とした講習 AEDの使用に関する講習については、救命の現場に居合わせてAEDを使用する一般市民が心停止者の安全を確保した上で積極的に救命に取り組むため、その受講が勧奨されるものであること。 講習の内容及び時間数については、別添1にすることが適当であること。 なお、講習の実施に当たっては、受講する者に過度の負担を生じさせることなく、より多くの国民にAEDの使用を普及させる観点から、講師の人选、生徒数、実習に用いるAEDの数等を工夫の上、講義と実習を組み合わせることにより、概ね3時間程度で、必要な内容について、効果的な知識・技能の修得に努めること。また、<u>短時間で習得することのできる入門講習も積極的に活用すること。</u></p> <p>4～7 (略)</p>	<p>1～2 (略)</p> <p>3 一般市民を対象とした講習 AEDの使用に関する講習については、救命の現場に居合わせてAEDを使用する一般市民が心停止者の安全を確保した上で積極的に救命に取り組むため、その受講が勧奨されるものであること。 講習の内容及び時間数については、別添1にすることが適当であること。 なお、講習の実施に当たっては、受講する者に過度の負担を生じさせることなく、より多くの国民にAEDの使用を普及させる観点から、講師の人选、生徒数、実習に用いるAEDの数等を工夫の上、講義と実習を組み合わせることにより、概ね3時間程度で、必要な内容について、効果的な知識・技能の修得に努めること。</p> <p>4～7 (略)</p>

非医療従事者による自動体外式除細動器(AED)の使用を促すための入門講習

【一般目標】

- 1 基本的な胸骨圧迫の方法を習得する
- 2 救命の連鎖における第1発見者の行動の重要性を理解する
- 3 安全にAEDを使用する

【講習内容の選択】

講習内容(入門講習45分、入門講習90分)については、指導者数や受講者数、また準備物品等を考慮し選択すること。

【講習内容：入門講習 45分】

大項目	小項目	到達目標	時間例 (分)
導入	心臓突然死の特徴	導入講義(スライド/ビデオ等)	5
	命の大切さと心臓の働きと心停止	心臓の働きと位置を知る 心停止の意味と心肺蘇生の必要性を知る 救命の連鎖、市民の役割、AEDの必要性を理解する	5
胸骨圧迫のみの 心肺蘇生(実技)	初動	自身の身の安全確保の重要性を知る 反応の確認、119番通報とAEDの要請	3
	呼吸の確認	呼吸の有無の確認 死戦期呼吸は心停止と判断する	3
	胸骨圧迫の実施	胸骨の位置を確認する 正しい胸骨圧迫の方法を知り体験する 胸骨圧迫の交代の方法を知り体験する	10
AEDの使い方 (実技)	AEDの使い方 (胸骨圧迫の実施を含む)	AEDの正しい使い方を知り、模擬AEDで体験する。 安全を確認し、電気ショックボタンを押す 電気ショック適応の場合の対応 電気ショック不要の場合の対応	14
まとめ	学習のまとめ	心停止に遭遇した際に知っておいてほしいこと(倫理的問題、ストレスケア等) 人工呼吸が必要な心停止について(紹介/デモ等) 質疑応答	5
講習時間計(例)			45

【準備物品、留意事項：入門講習 45分】

- 1～2人に1個の簡易トレーニングキットと簡易AED。
- DVD教材とプロジェクター等映像・音響環境。
- AEDトレーナーが1台以上あれば望ましい。
- 受講者と指導者の配置については1:多人数(DVDベースで、全体で一斉に指導。10～20名に1名程度補助指導者)。

【講習内容：入門講習 90分】

大項目	小項目	到達目標	時間例(分)
導入	心臓突然死の特徴	導入講義(スライド/ビデオ等)	5
	命の大切さと心臓の働きと心停止	心臓の働きと位置を知る 心停止の意味と心肺蘇生の必要性を知る 救命の連鎖、市民の役割、AEDの必要性を理解する	5
胸骨圧迫のみの心肺蘇生(実技)	初動	自身の身の安全確保の重要性を知る 反応の確認、119番通報とAEDの要請	5
	呼吸の確認	呼吸の有無の確認 死戦期呼吸は心停止と判断する	5
	胸骨圧迫の実施	胸骨の位置を確認する 正しい胸骨圧迫の方法を知り体験する 胸骨圧迫の交代の方法を知り体験する	15
AEDの使い方(グループ毎に実技)	AEDの使い方	AEDの正しい使い方を知り、模擬AEDで体験する。 安全を確認し、電気ショックボタンを押す	15
シナリオシミュレーション(実技)	AEDを用いた救命処置(胸骨圧迫の実技を含む)	電気ショック適応の場合の対応 電気ショック不要の場合の対応	25
まとめ	学習のまとめ	心停止に遭遇した際に知っておいてほしいこと(倫理的問題、ストレスケア等) 口頭指導の紹介 人工呼吸付心肺蘇生のデモ展示 質疑応答	15
講習時間計(例)			90

【準備物品、留意事項：入門講習 90分】

- 4~5人に1体の蘇生訓練人形とAEDトレーナー。
- 指導者と受講者の配置については1:4~5名(指導者ベース)。

自動体外式除細動器(AED)を使用する非医療従事者(一般市民)に対する講習

【一般目標】

- 1 救命の連鎖と早期除細動の重要性を理解する
- 2 効果的な心肺蘇生が実施できる
- 3 正しくAEDを作動させ、安全に使用できる

【講習内容】

大項目	小項目	到達目標	時間例(分)
イントロダクション	コースの概説 救命の連鎖の重要性	救命の連鎖(心停止の予防を含む)の重要性を理解する 通報により口頭指導が得られることを理解する	15
心肺蘇生(実技)	反応の確認、通報、呼吸の確認	反応の確認、早期通報、呼吸の確認(死戦期呼吸を含む)が実施できる	10
	胸骨圧迫(心臓マッサージ)	有効な胸骨圧迫が実施できる	15
	気道の確保と人工呼吸	気道の確保と人工呼吸が実施できる	15
	シナリオに対応した心肺蘇生	シナリオに対応した心肺蘇生の実施ができる	10
休憩			15
AEDの使用(実技)	AEDの使用法(ビデオあるいはデモ)	AEDの電源の入れ方とパッドの装着方法を理解する	10
	指導者による使用法の実際の提示	AEDの使用法と注意点を理解する	10
	AEDの実技	シナリオに対応して、安全にAEDを使用できる	35
知識と実技の確認	シナリオを使用した知識と実技の確認	様々なシナリオに対応した心肺蘇生法やAEDが実施できる	45
講習時間計(例)			180

【留意事項】

- 講習対象者に応じたシナリオの作成等、講習内容の創意工夫をおこなうこと。
- 心肺蘇生とAED使用法のシナリオは小児(乳児を除く)への対応が包括されること。
- 概ね2年の間隔で定期的な再講習が望ましいこと。
- 効果的かつ質の高い実習を行うために、受講者と用いる教材・機材等の配置については5:1以内が望ましいこと。
- 効果的かつ質の高い実習を行うために、受講者と指導者の配置については10:1以内が望ましいこと。
- 講習時間については、到達目標に達することを前提として教材・機材や指導者数により柔軟に対応すること。